

# 昔の夢は今日の常識、 今日の夢も明日の常識

株式会社アクティブ 代表取締役

嶽 正幸 CVS



私事で恐縮ですが、後期高齢者の仲間入りをする年齢になり、会社生活も起業を含め50余年を経過し、人生を振り返ることも多くなってきたが、団塊世代を生きてきた者には昨今の技術革新のスピードには目を見張るものがある。例えば、ダイヤル式電話が、いまやカメラ・パソコン・ネットバンキング機能まで兼ね備えたスマホに置き換わり、自動車もドローンによる空飛ぶ自動車の出現や自動運転が可能となり、製品に付随する機能も複雑かつ千差万別で、操作方法を理解するのもひと苦労する時代になってきている。

産業構造も自然から資源を採取してきた第一次産業の時代を経て、1900年代後半からは製造業を中心とした第二次産業の進展に加え、サービス・金融・情報通信などの第三次産業の台頭で高度成長期の時代となり、コンピュータや微細化技術の急速な発展により、物の形状も「重厚長大」から「軽薄短小」へと移行してきた。その間、企業も業績向上のため、VEの定義でもある「最低のライフサイクルコストで必要な機能を確実に達成するために製品やサービスの機能的な研究を組織的に行う努力」そのものを愚直に実践してきたものである。

そして昨今、技術の潮流は第四次産業と言われるIoT（あらゆるモノがインターネットとつながり、相互に制御するシステム）や、AI（人工知能）及びビッグデータ（日々生成される多種多様なデータ群）を用いることで、各分野に新たな革新と変化を与えようとしている。これらの最先端の技術を取り入れることにより、AIを搭載したコンピュータが自分で判断し動くシステムを確立できるようになり、企業もさらなるデジタル化（DX）やコンピュータ化が進むようになってきている。

その中で昨今話題となっているのが、チャットGPTなるAIを駆使した新たな検索ツールで、本サービスは会話型にてユーザーが入力した質問に対し、AIが過去蓄積したデータをもとに回答するサービスで、登録も簡単で無料とのことでもあり、まずは「今後バリュー・エンジニアリングの考え方をさらに発

展させていくにはどうしたらいいか？」と単純に聞いてみた。瞬時に「バリュー・エンジニアリングは製品やサービスの改善において非常に有用な手法であり、継続的な改善に向けた取り組みを促すことができます。以下は今後、バリュー・エンジニアリングの考え方をさらに発展させていくための提案です」との但し書きが出てきた。

タイトルだけを記すと、「1. ユーザーの声を取り入れることが重要です」「2. ビジネスの戦略に合わせて改善を行うことが必要です」「3. チーム内でのコミュニケーションを改善することが必要です」「4. データ分析能力を向上させることが必要です」「5. 改善プロセスを継続的に実施することが必要です」とのことで、個別内容については省略するが、各項目に対応した進め方も記載されてきた。質問がやや抽象的であったため、回答も至極一般的であり、捉え方もやや狭義となっていることは否めないが、本内容を即座に会話形式で回答してくるのには、驚きを隠しえないものがあり、昨年11月に公開して以来、直ちに世界的に広まっていったのも頷ける。

日本でも官公庁や学校などの公的機関をはじめ、その活用方法が論じられてきているが、回答は全てが正しいわけでもなく、その使い方が非常に重要になってくるのは当然であり、企業でもチャットGPTを応用した独自の生成AIを開発する動きが出てきている。いずれにしてもこの直近50年間の技術革新の進歩は本当に凄まじいものがあるが、これからさらに加速度的に進むであろう技術革新の波に乗り遅れないためにはどうすべきか？ 年を重ねるごとに頭の痛い問題でもあり、VEも新たなステージに入ってきたと言っても過言ではない。

「昨日の夢は今日の常識、今日の夢も明日の常識」と考えると、すでに囁かれはじめている第5次産業以降の動向も注視しつつ、新たな変化を先取りした未来志向的で斬新なVEのあり方を模索していく必要があるのかもしれない。（筆者は当会理事）